

ユニセフ「ハンド・イン・ハンド募金」 東日本大震災被災者支援：11月6日開催

第8回：駅伝ライブ報告

オープンニング：
池田小 すいんぐきっず



「スマトラ沖地震津波支援」から始まった「駅伝ライブ」今年も「第8回」、11月6日に開催し、皆様のお陰で成功裏に終わることが出来ました。厚くお礼申し上げます。第8回駅伝ライブは、お客様・ミュージシャンの皆様・スタッフの皆様を合わせて、500人を越えるご参加の大イベントでした。当社2階の「ギャラリー集」と「楽々ホール」の二つを交互に使用し、途切れなく、リレーの連続でライブを行いました。当日の写真を掲載しました。



ユニセフ・ハンド・イン・ハンド：10万円
東日本大震災義捐金11万2千013円

再会

会えることが一番
五十五年ぶりの再会
七十七歳になったのと
六十歳になりましたと
二十歳だったのと
五歳だったのと
朝は歌で始まり
給食を食べ

豊田勇造

また会えることが嬉しい
泣きそうになった
その人は笑った
俺も笑った
その人は笑った
俺も笑った
小さな数を教わり
金魚になって 昼寝をした



宮原重彦さん



フラリーバッド



澤田好宏「ケメコ

駅伝ライブには、記名欄以外に下記の方々が出演されました。
：村治健&今井みゆみ、：セラミックボーイズ、：ひょうたん島、：津軽三味線徳田徳美、
：北村サユリ&井戸口BON、：澤田好宏と大城志ヤグランド、：京女ダンスクラブ、
：J-MAC '65、：沖縄音楽 なぁ、：みずすまし、：その他スタッフ多数

鉄棒にぶら下がって
庭にトカゲがいて
三人の先生を
一日は歌で終り
それは毎日のこと
でも本当はずうつと
五十五年 五十五年
五十五年の間に
いゝんなことがあつた
でもこんなこと初めて
会えることが一番
思い出の人と会つた

すべり台から落ちた
柘榴の木もあつた
みんな慕つてた
手をつないで帰つた
ついでこの間のこと
五十五年のこと
五十五年の間に
五十五年の間に
五十五年の間に

第84回朝粥食べておしゃべり会報告

お話しは、朝粥を食べる前
先人達が残してくれた
知恵を学ぶ
一橋アシラム 鍼灸治療師
田中寿雄 先生
お話しは、朝粥を食べる前
先人達が残してくれた
知恵を学ぶ
一橋アシラム 鍼灸治療師
田中寿雄 先生



田中寿雄先生

今号の「酒屋に生きて」欄
を書き上げた時、Kさんと仰
る女性がご来店、会いたいと
呼ばれて店にでた。
会つたり、白髪になつたなあ
と老女が声をかけた。姿より
若い声を聞いて50年以上前
店に勤務のM(旧姓)女だ判る。
博物館に来て懐かしくてと
言う。あの時代の話やM女と
同僚だった人の消息を聞かれ
多くは亡くなつたと告げる。
その「あの時代」を「酒屋欄」
で書いたので「下書き」を見
せた。「番頭でAやる。あの
人は悪い奴だった」と言う。
そして「あんたマダ赤か」と
聞く。「赤やないがピンク
かなあ」と答えると、「それ良
かった」ソプラノで笑つた。
欄内の清酒「日本魂」写真
をみて懐かしいヤマトダマシ
イヤと正確な銘柄名で読み、
一生懸命に売りましたなあと。
私より数歳上だから、80歳
は越えている筈だ。「エエ声
してるやん」と言つと今もコ
ラスに参加していると答えた。
姓が代わつて居るから結婚
したのだから「博物館やコー
ラス」出られる。キット幸せ
な人生を過ごしているのだらう。
こんな久し振りの再会が、
この号の勇造さん再会・P2
「シゲちゃんの疑問」横に書
いた文にも影響したようだ。
昔話と馬鹿には出来ない。
その昔と昔が重なつて今があ
る。老人は「国宝」だと胸を
張ろつぞ、高齢者達！。ys



サカタニ友の会ニユース

発行所
株式会社サカタニ
集西薬・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosi rou@sosake.jp



2011 11/6開催 第8回 駅伝ライ 余話

今月号1ページに第8回駅伝ライプの報告を掲載した。幾つもの感動、音楽の楽しさと被災地や飢えに苦しむ子供達支援の気持が会場に満ちていた。豊田勇造さんは駅伝ライプに初めてのご出演。三曲目の「再会」の前に、京都壬生生まれ、京ことばで、歌にまつわる出来事をお話になり、切々とした語りについて、「再会」(歌詞別掲)を唄われた。終り

【住所録】 再会

豊田勇造
それは今年

(2010)の一月のことだった。京都の「集西楽(サカタ)楽々ホール」でのライブの時、一部と二部の休憩時間に年配の女の方が面会に来られた。「ゆっちゃん わたしのよからん?」その方はひと言目にこう尋ねられた。

豊田さん、勇造さん、勇造、ユーゾー(これはタイで)と色んな呼び方で呼ばれるが、「ゆっちゃん」と呼ばれたことはめったにない。そんなふうに呼ぶのは、よほど小さい頃の友だちくらいだから、一瞬とまどった。「すみません、分かりませんが」と答えると「保育園のときの長谷川です」とその方が

の拍手が消えたのあと、会場に来ておられた「再会」歌の主人公の方を紹介された。再び大きな拍手とウオーという歓声が湧いた。その方は勇造さんが55年前に通った保育園の保育先生だった。

ライブ四日後、当社の「楽々落語会」桂米二師匠他・にその先生が来られ「再会」の詩をお持ちならお貸しくださいとお願いした。数日後、詩と詩になる経緯掲載の小冊子「雲遊天下103号2010.8.10・発行柳レシジフレス」が届き、左に転載した。

「長谷川先生ですか!」長谷川まゆみ先生ですか!と、すぐに下の名前まで思い出したのは訳がある。三歳から五歳まで通っていた保育園は、卒園写真に写る同期の園生は十五人ほど、先生も三人とごんまりとした所だったので、園生と先生がとも身近だった。そのせいで、特別にお世話になった二人の先生の名前は、今もはっきりと覚えてるから。「ゆっちゃんが、歌をうとうてるというの、昔から新聞とかで見て知ってたけど、わたしももう歳やし、一回ぐらいは聴きに行かなあかんと思ってた、今日きてみたのや」と言われた先生を、一部の途中でステージから紹介して、

シゲちゃんの 疑問 第4回

皆さん、よく眠れていますか?

「寝つきが悪い」、「夜中に何度も目がさめる」、「朝早く目がさめる」、「熟睡できない」といった話を多くの人から聞きます。ぐっすり眠れている人は、今の日本、ほとんどに少ないように思います。先日、滋賀医科大学睡眠学講座特任教授の大川匡子(まさこ)先生のお話を聴く機会がありました。

大川先生は幼いときから眠ることが大好きで、「人はなぜ眠るのだろう」、「眠るとなぜ嫌なことを忘れるのだろう」などと考えているうちに、いつしか睡眠研究を専門にするようになり、もう五十年近く睡眠を「科学」してこられた方でした。「睡眠は人間にとって食べることに同じか、その次ぐらいに大事なことです」とおっしゃり、睡眠と生活習慣病、睡眠とうつ病の関係などについて興味深い話を聞かせてくださいました。大川先生が強調されたのは「朝早く起きてしっかりと日光を浴びる」ということでした。昼間よく光を浴びると、夜に「メラトニン」というホルモンが脳内にたくさん分泌され、よく眠れるようになる。光は脳にも身体にも心にも存外の働きをおよぼす。いい睡眠をしっかりとれるようになれば、生活習慣病や精神疾患の多くが快方に向かうだろうと、おっしゃってられました。躁鬱と睡眠障害の経験がある私は、この話を実感をもって聞くことができました。ヨシイちゃんや読者の皆さんはいかがでしょうか? 井上茂樹(文筆業)



歌詞掲載の歌に
再会に1

駅伝ライブで語りかけるように唄う勇造さん。55年前を思いおぼすの髪のお白い長谷川先生



少し思い出話をしてもらった。その日の久しぶりの再会、五十五年ぶりの再会が嬉しくてできあがった歌がある。てできあがった歌がある。良い方。でも、中学頃は朝寝坊で遅刻の王様。高校頃は好きな女の子の夢を長くみて寝坊。青年時代は「革命の夢」を見て寝る間も惜しんで動いた。商人になって天井が資金に限界が有るのだろう。祖母の繰繰表に見え、明日の手形はどうして決済しようと、寝苦しい夜を幾日も過ごした。子供が出来たころは、常務取締役なのに、所得税が課せられない安い報酬、小遣い稼ぎに寝る間を惜しんで内職のようなことをした。大借金を抱え現在地で酒屋を開業、順調に進み良く寝られた。ビル建設しコンビニで24時間年中無休で寝る時間

ヨシイちゃんの
ひとこと 今月は休み



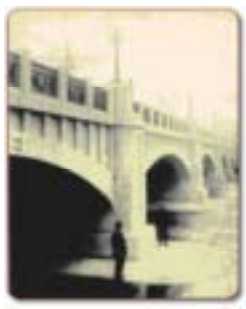
京都&東山
ぶらりりピカリ
31

七条大橋建設工費
十八万二千元

京都駅から東山方面へ来られる多くの人が、鴨川を最初に渡られる橋が、この3年(大2)に建設された「七条大橋」。

橋建設費は金十八万二千元。内、左右の「高欄」が一萬三千円だったと言つ。(史料京都市歴史) 今や大卒の初任給より少額、一世紀の年月を感じる。

そしてこの橋は、数回の鴨川大洪水にも一度も流されず壊れなかった「唯一」の優れものだ。が、戦時中、金属供出で欄干と高欄は兵器になり、高欄は今も無い。橋を渡る人には「橋」は道路と同じで「橋の側面」は見えないが、ご覧のように黒い汚れている。橋の歩道部分も他の橋とは見劣り甚だしい。



上は、架橋当時
右は、現在の姿



文化施設と橋を同じとは言う源頼光の時代と違って、京えなないが、この3年(昭38)開館した京都美術館を取壊し、新しくオペラ上演できる新美術館計画を知ると、京都の下(シモ・南)に住むものは、違和感を禁じえない。

市電が走つた街
京都を巡る
福田静一



市電四条線の四条

京阪前を発車した市電は、京阪電車と平面交差して、四条大橋を渡ります。現在の四条大橋が竣工したのは、昭和四十年で、市電時代から姿は変わっていません。四条大橋の西南畔に建つ東華菜館も、市電時代から変わらない姿を保っています。

ヴォーリス設計による大正十五年竣工の名建築で、屋上から四条大橋を見下ろす光景は、各時代の定点撮影の名所地でもありました。館内にあるエレベーターは、現役としては、日本で最古のものと言われています。



高島屋の前に西行きの 停留所があった



右は住友銀行、左に京阪特急の大きなネオンがあった市電時代

町通と交差すると、四条河原町新京極の停留所に到着です。繁華街でもあり、電車ターミナルでもある停留所、四条線、河原町線を合わせた乗降客数は、京都駅前に次いで市電第二位でした。

停留所の歴史を辿ると、まず四条線の停留所が、市営電車の第一期線区間として明治四十五年に設けられました。交差する河原町線の敷設は、その後、大正十五年のことで

住友銀行の重厚な建物があり、その後、新しい京都住友ビルに建て替えられ、テナントとして阪急百貨店が入居したのが昭和五十一年のことでした。ところが中心部にあった「新京極」が廃止されて統合された結果、この名称が生まれませんでした。漢字八文字の電停は、以前、北野線にあった「西陣職業安定所前」と並び、京都市電ではいちばん長い名称でした。市バスの停留所名はもちろん四条河原町で、市電独自のネーミングです。

また、東北角には、古びた2階建てのビルが、つい最近まであり、その上には「京阪特急」の巨大なネオンが目を引きました。京阪の乗り場は鴨川を渡った先ですが、交差点で京阪への誘導を促すネオンサインでした。その後、この地は、阪急資本のビルとなり、京阪から阪急への交替という皮肉な結末となりました。

このように、市電時代と比べると、繁華街だけにその変化は目覚ましいものがあります。最近では、京都駅前などに商業施設が多くでき、四条河原町の相対的な地位が低下してきました。阪急河原町駅の乗降客数も最多時期に比べて減少しています。たしかに市電時代は、いま以上に熱気があったように思っています。

住んでいた場所からも近く、小さい時から四条河原町に親しんできた私にとっては、少しさびしい現実がそこにはありました。

酒屋で生きて生かされて

第八十四話

人の情け 非情を知る

税務署に申請した法人酒卸免許が下り株式会社酒谷本店発足。21歳の私も参加することになりました。そこに至るまで七ヶ月は休業状態。お得意先や親戚も近づかず、商品もないガランとした家は債権者会議の有る日以外は静かでした。

番頭格の男は整理を決めた数日後から店には来ず、酒小売免許を得て酒屋を開業、それまで私どもの店が納品していた重要な「飲食店」を横取りしました。他にも色々なことが起こり、人の世の「非情」を始めて経験しました。情けも知ったのです。

資金繰りに行き詰まり「整理」を決めた数日後、祖父が親しくしていた八条のT酒店さんのお婆さんが来られ父に「一郎はんこれ使って」と紙包みを差出されました。中には百円札が沢山入っていたのです。千円も数年前に発行され、万札がない時代です。「10万やけどワテがためた金や返さんかてエエし」。伏見のK酒店さんのご主人からも同じ様な

11月号本欄は62話は誤り63話が正。

お申し出がありました。父は丁寧に断りました。その両店はもう孫さんが曾孫さんの代でしょうが近くを通ると当時のお声は今も聞こえるような気がするのです。

新会社は資本金三百万、直ぐ増資して五百万。その資金でs銀行の借入金返済しました。株主は江井ヶ島酒造、朝日麦酒、協和発酵他社。配達要員三名、セールスは私を含め三名、事務二名。配達用と貨物自動車2台とオートバイ2台の体制でスタートしました。私のセールス受持ち、東山、左京、伏見区を御

知らない損をする

保険の話

清水克彦

母子家庭において、生命保険金の受取人を子供にするのは(良くない)です。

A子さんは、ギョムブル好きで、しかも女にだらしのな夫に愛想を尽かして離婚し、5歳の息子B君を自分の手元に引き取りました。幸いな事に、職を得て、忙しく働く毎日です。でも自分に万一の事があつた時、B君の事が心配なので、B子さんを契約者・被保険者、

用聞きに廻る仕事です。厚司(法被)酒屋前掛姿で酒屋袋を自転車のハンドルにぶら下げてセールスです。

東山区に私どもも含め酒問屋が五店舗あり、中でもA商店が圧倒的に強い地盤をつくつていて大苦戦。特に店に近い小学校区は数軒しかお取引が出来ない状態が続きました。無理も有りません。私どもの整理の発端になった「業務上横領事件」でその方々に迷惑をおかけたのですから。でも得がたい経験をしました。社長の父は、大津、草津に得意先をつくり、私がその地区を担当して、株主の江井ヶ島酒造のお酒や、三重県酒

を中心販売をしました。2年目で会社は「黒字」になり、棚上げして貰っていた債務を少しづつ減らし始めた。そして私は参加していた1957年(昭30)在る事で政治組織から離れ、酒卸業に専念することになりました。

江井ヶ島酒造は明石市にあり、1888年(明治)に家業を株式会社。現在も日本酒・焼酎・ウイスキー・ワインなど多品目の酒類を醸造販売されています。その一部写真掲載します。



白玉ホワイトワイン 清酒：日本酒

B君を保険金受取人にする300万円の生命保険に加入しました。ここで、A子さんが、不幸にして、保険加入後1年で亡くなつたとしましょう。B君は、保険金を受け取る資格はあるのですが、実際の手続き上、簡単には受け取れないのです。というのは、B君は未成年者なので、保険金を受け取るという法律行為は親権者を通じてしなければなりません。B君の親権者は、母親のA子さんでしたが、B子さんは亡くなつていたので、今はB君に親権者は居ません。B君が保険金を受け取ると、未成年後見人(家庭裁判所に選んでもらわなければなりません。未成年後見人は子供の将来のことを考えて慎重に選ばれるので、時間が相当かかります。従つてB君は、タイムリーに保険金を受け取るこ

編集後記

1年と言う時間が、年々早くなり、昨日正月だったのに、もう明日がお正月という感覚になります。それは前に書いたジャーネーの法則だそう

フランスの心理学者ポール・ジャーネーは生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢の逆数に比例するといふ。1歳の子どもの1日は30歳の大人の30日。編集者は、昨日「とんからりん」11月号を書いたのに、もう12月号を書かんならんと近頃は何時も思います。老いてきたのでしようか? 書き終わり印刷しもう一度読み直すと、あれ! 前に書いたことを二度書きしてたと気付きます。読者の方は、お優しく抗議はきませんが、今は、お三人さまから連載ご投稿を戴き、書く量は減りました。第1号は2009年(平成17)4月でもう16年になります。休刊時期や二ヶ月1度刊も有りますが、創刊頃からの読者のお方でお元氣な方もありますが、その間に娘は結婚、孫も出来ました。今はジャーネーの法則より早く感じるようです。

次号は新春号。陰気臭いことは書きにくいので年末号でボヤキを書きました。老眼鏡を使えばキーボードは見えます。鬼が笑うかも知れませんが来年も書き続けます。再来年も? アホやなあですが宜しく。来年はキット良い年です。